

羽咋教会 能登半島地震 被災教会報告

地震発生直後、富来伝道所から羽咋教会に戻る道中、二車線の道路で崖崩れがおき、いたるところで陥没、隆起していました。

ハンドルをとられたのか、ガードレールに衝突したまま無人で放置された車もありました。倒壊した建物の前で愕然と立ちつくしておられた地域住民の方々の姿を忘れることが出来ません。



富来伝道所と同じハウスメーカーさんによる耐震、免震構造であったため柱の傾きや損壊は免れましたが、複数箇所で外壁サイディングがずれて隙間が出来てしまいました。

5月、雨水が入らないようにする補修が行われました。

会堂内には、内壁（壁紙）が破れてしまった箇所が多くあります。高所など、セルフ補修が出来ない箇所も多いため現在、ハウスメーカーさんに見積もりをお願いし、修復を検討しています。





地震発生直後、内城牧師の車の天井にヒビが入り、水漏れ（電気系統が破損）してしまったため、震災支援のシェアカーをお借りしました。幸い車は修理され、被災地での活動に用いられています。

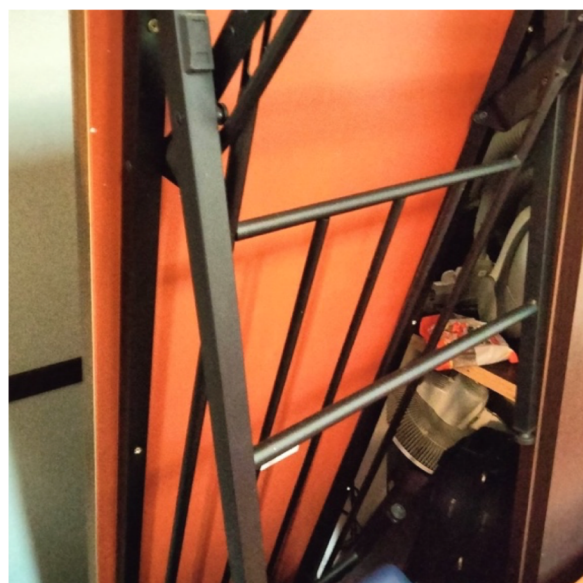
全国の諸教会よりお便り、祈りのメッセージが届き、とても励まされています。



震災直後に教会学校の生徒が祈りを込めて描きました。

富来伝道所

地震発生直後、会堂内が散乱、内扉のレーズも外れ、扉が開けられないほどでした。羽咋に戻らなければいけなかったため、当日は電気のブレーカーを落とし、水道栓をとめて、そのまま伝道所を後にしました。その後、長く断水が続き、断水中の日曜日には、ポリタンクと雨水タンクの水を使ってトイレを利用していました。



外庭は隣家の屋根瓦が積み上がり、庭を覆っていました。会堂のコンクリート階段のタイルが基礎からずれて割れてしまいました。外壁タイルの剥離は地震直後、階段は余震による被害です。

2007 年の能登半島地震の後に建てられた耐免震構造であったため、柱が折れずに守られましたが、地震体験車のような揺れによって内壁がたわみ、壁紙がいたるところで破れてしまいました。見積もりを出して頂き、補修の検討をしています。





屋外に壁付けされた給湯・貯水タンクは、固定金具を壊して根元から折れ、倒れたエアコンの室外機と共に損壊してしまいました。

現在、給湯設備は中部教区からのご支援によって交換、復旧し富来伝道所を宿泊場所として利用して、外海の孤立地区に遣わされている学生ボランティアの方々にも喜ばれています。

羽咋白百合幼稚園（震災直後）



園庭の地割れ



園舎内

作成：中部教区現地委員会

昨年12月のクリスマス礼拝、そして31日に「年末祈祷会」を行い、感謝をもって2023年を終えた翌2024年1月1日、富来伝道所にほど近い場所で最大震度7を記録した「能登半島地震」が起きました。私どもは、2007年の春に起きた能登半島地震の後、祈りとご支援を頂いて現在の会堂と牧師館を建築して以来、感謝をもって、一週一週の礼拝と、地域との交わりを大切に歩んでまいりましたので、甚大な被害が奥能登の広域に及ぶ状況に、心震える思いをもってこの数ヶ月間を過ごしてまいりました。教会員の中には家屋が被災した方もおられ、金沢方面に避難して志賀町に戻れなくなってしまった方もおられます。

そのような中、富来伝道所においては、断水の解消後、破損した給湯設備が中部教区の支援により復旧出来たことで、3月から北陸学院大学等の学生ボランティアのために、また8月からは日本基督教団主催の被災地・被災教会ボランティアの宿泊所として用いられています。震災復興の祈りのうちに結実した会堂が、再び起こった地震の後に、感謝の応答として用いられていることに感謝をいたします。

羽咋教会、また富来伝道所の外壁や内壁も所々ひび割れていますが、2007年の地震後、耐震強度の高い建物として建てられ、安全な使用に問題はありません。加えて、羽咋教会の長老が日本基督教団の委託により復興支援ボランティアの支援に関わらせて頂けることにも主の導きと信じ感謝しています。そして、今こそ地域に福音の光りを届ける教会の役割を覚え、祈りつつ復興に励んでいます。

羽咋教会、富来伝道所、また関連施設である「羽咋白百合幼稚園」や学童クラブ「羽咋ゆりっこ児童クラブ」も皆様の祈りとご支援の中において頂き感謝いたします。去る5月28日(火)に「石川地区総会」が羽咋教会を会場に開催されました。また11月23日(土)には「石川地区信徒大会」が羽咋教会を会場に行われる予定です。能登の教会のために、共に祈りを合わせる時となることを願っています。